

令和3年度 第1回

丹波市地域公共交通活性化協議会
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閱覽用

1 開催日時 令和3年7月30日（金） 午後2時30分 開会

2 開催場所 丹波市立柏原住民センター

3 出席者 (委員)

北川博巳	会長	大野亮祐	副会長
本間和典	委員	足立安夫	委員
水田節男	委員	蘆田長門	委員
塩谷泰久	委員	田橋一	委員
石田光	委員	三宅広昭	委員
横谷博久	委員	木寺章	委員
芦田正吾	委員	長田貴	委員
和田綱木	委員	近藤巧	委員

委員16名出席

(オブザーバー)

奥藤秀樹 (兵庫県交通政策課副課長)

藤本泰男 (デマンド(予約)型乗合タクシー運営者)

4 欠席者 堂本喜代和 委員

5 会議に付した議題及び案件とその内容

1) 開 会

2) 会長あいさつ

3) 議 事

- ① デマンドタクシーの状況分析について
- ② 路線バスの利用状況について
- ③ 令和2年度の実施事業及び決算について
- ④ 令和3年度の事業案及び予算案について
- ⑤ 木曜日運行の社会実験について
- ⑥ 地域公共交通活性化再生法の改正について
- ⑦ 周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究について
- ⑧ 福祉による移動施策について
- ⑨ その他

4) 閉 会

(事務局)

只今から令和3年度第1回丹波市地域公共交通活性化協議会（丹波市地域公共交通会議）を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席をいただきありがとうございます。

また、本会委員の再任につきましてご承諾をいただきましたこと、厚くお礼を申し上げます。本年度から2年間、本会の委員としてお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、再任という形ですので、会長、副会長、監査員の役員につきましても、引き続きお世話になりたく存じますので、ご理解賜りますよう、よろしくお願いいたします。

まずは、本日お配りしています資料の確認をさせていただきます。

[配布資料の確認]

また、本日の会議記録作成のために録音をさせていただきますので、ご了承をいただきたいと思います。

それでは、令和3年度の第1回の開催ですので、改めまして本会の委員の皆様をご紹介します。

[委員名簿により各委員を紹介]

次に、本年4月の市役所の組織改編により、事務局の部署名が、ふるさと創造部ふるさと定住促進課に変更になっております。職員につきましては、引き続き担当させていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、健康福祉部につきましては、人事異動により担当が交替しておりますので、それぞれ自己紹介をさせていただきます。

[健康福祉部職員の自己紹介]

(事務局)

それでは、以降の進行につきましては会長にお願いいたします。

(会長)

皆さんこんにちは。本年度から新たに2年の委員の任期が始まりますけれども、引き続きよろしくお願いいたします。

コロナ禍はまだ予断をゆるさない状況ですので、この会議も感染予防対策を講じながら行いたいと思います。

前回の2年の任期の間には、本当にいろいろなことがありました。

まずは、コロナ禍で交通利用者数の伸び悩みが大変でした。感染予防対策をして利用者が戻ってきても、感染者の増減に影響されるというような状況が続いていますが、そのような中でも、デマンドタクシーは比較的安定した乗り物だという印象がありました。

それから、福祉による移動施策について考える新たな部会が設けられました。

そして、この4月からの新事業として、おでかけサポート事業が展開されております。この事業については、何かあればその都度ご報告を受けながら改善案を考えていかなければならないと思っております。

少し進んだ点としては、公共交通の中に、福祉面でサポートをするサービスが少しずつ入ってきています。

それから、デマンドタクシーの新たな展開を考えるということで、木曜日運行の社会実験の実施について皆さんの合意をいただいたので、令和3年度は予算計上して実証実験を行うということになりました。

そして、周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究をすることについても、皆さんの合意をいただきました。

丹波医療センターの開設にあわせて路線バスを再編し、丹波医療センターへの便数が増え、利用状況も良いと聞いておりますが、一方で乗り継ぎが不便な地域があるので、そのあたりをどう考えていくかを研究したいと思えます。

この件は、今年度のテーマになると思いますのでよろしく申し上げます。

それでは、議事を進めます。まずは①デマンド交通の状況分析について事務局より説明をお願いします。

[①デマンドタクシーの状況分析について説明 資料：別紙1～別紙15]

(会長)

ありがとうございます。

昨年度はコロナ禍で利用者数が減りましたが、傾向としては例年と同じような感じだと思えました。

新たな取り組みとしては、令和3年3月に各車両に電子マネー決済機が導入されたので、どのような利用状況なのか、報告していただければと思います。

それから、別紙13の乗降場所利用上位一覧で、降車と乗車の場所がマッチしないところがあるのはどういう状況なのか分かりますか。

(事務局)

行きはデマンドタクシーを利用して帰りは普通タクシーを利用するという方もあります。駅からの利用においては、電車との接続の関係で普通タクシーに乗り継がれる方もいらっ

しゃいます。

(会長)

ありがとうございます。別紙 13 の乗降場所利用上位一覧では、丹波竹田駅や谷川駅が上位にあがってきているので、特に電車や路線バスとの接続の関係も含めて状況を見ていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

その他何かご質問等ありますか。

(委員)

別紙 15 の成果と評価では、デマンドタクシーの周知及び新規利用者の拡大をめざすとあります。

ただ、いろいろなデータの分析をされている中で、令和 2 年度は登録者約 9,500 人ですが、別紙 3 の行政区別の実利用者の集計を見ると、実際に利用されたのは約 1,000 人です。

登録はしていても実際に利用している人がすごく少ないと感じるので、その原因の調査等も含めて、デマンドタクシーの周知をしていただきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。ご指摘の件は研究対象になるかと思いますが、事務局で何か把握していることはありますか。

(事務局)

10 年前にデマンドタクシーを導入するタイミングで、自治会等に積極的に利用登録を呼びかけ、自治会の公民館等で登録の受け付けをしたという経過があります。

その際に、すぐに利用する予定はない方も含めて家族全員の登録をしておくというケースが多くあったと思われます。

最近の事例として、免許を返納したのでデマンドタクシーの利用登録をしたが、登録状況を確認すると既に登録があるという方もありました。

そのようなことも利用率に影響はあると考えられます。

(会長)

ありがとうございます。たぶん 70 歳代の人が多く登録をされていて、少しずつデマンドタクシーの利用に転換してくるような状況ですね。

運転免許証を自主返納された方へデマンドタクシーの利用登録を呼びかける等、いろいろな方のお力を借りながら、デマンドタクシーの普及を目指したいと思います。

(委員)

おでかけサポート事業をご利用の方でも、デマンドタクシーを利用可能な方はデマンドタクシーに移行されているようですし、今まで利用されていなかった方の利用も少し増えてきているように思います。

タクシー業界もデマンドタクシーもやはりコロナ禍の影響は避けられないということで、よくなってきたと思っても、まん延防止等重点措置等がとられるとまた悪くなる様な状況ですので、これからもこういう波が続くのだと思います。

(会長)

ありがとうございます。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響で利用状況が落ち込む傾向は明らかに出ているので、感染予防を含めて考えないといけないと思います。

また、令和3年3月から福知山線市内全駅でI C O C Aが使えるようになったり、デマンドタクシーで電子マネー決済が出来るようになったりと少しずつ便利で安全な環境整備が進んでいるので、利用状況と併せて見ていきたいと思います。

それでは、次は②路線バスの利用状況について事務局より説明をお願いします。

[②路線バスの利用状況について説明 資料：別紙16～別紙17]

(会長)

ありがとうございます。路線バス事業者から何かございますか。

(委員)

別紙16の延べ利用者数については、10月から翌年9月の期間で比較しています。

令和2年度の実績ですが、3月から9月の間はコロナ禍の影響を大きく受けた期間で利用者数も減少しましたが、令和2年の秋に比べると減少幅は小さかったとみています。

その要因としては、通学定期補助の効果が非常に大きく、柏原駅と青垣地域を結ぶ路線において通学利用が好調に推移しました。

それから報告として、令和3年4月に丹波市より柏原駅東側の施設をお借りして、兵庫陸運部に柏原車庫として登録させていただきました。

それによって、1日の回送キロが平日で60キロ余り、土日祝は30キロ余り減っています。回送距離が減るということは、ドライバーの拘束時間もある程度軽減できるので、安全運転、また健康管理にもつながり、非常に役立っています。

(会長)

ありがとうございます。通学定期補助が良い結果につながっているようで安心しました。それから、柏原車庫の設置により回送キロが減少したことも一つの大きな成果だと思い

ます。環境にも優しい訳ですから、非常に重要なことです。是非成果として記しておくとい
いと思います。

これにつきまして何かご質問等ございますか。

では、次に③令和2年度の実施事業及び決算について事務局より説明をお願いします。

[③令和2年度の実施事業及び決算について説明 資料：別紙18～別紙20]

(会長)

事務局より決算の報告がございましたので、監査員より監査報告をお願いします。

(委員)

監査報告をさせていただきます。令和2年度会計帳簿及び収支決算書につきまして、通
帳、帳簿ならびに関係書類を確認した結果、適正に処理されていたことを報告いたします。

(会長)

令和2年度の実施事業及び決算について何かご質問等があればお願いします。

各交通機関において、もっと乗っていただくにはどうするのか、デマンドタクシーについ
ては登録者を利用者に変えるためにはどうするのかということを考えていくことも大事だ
と思います。

デマンドタクシーについては、10年間運行してきて、システムの話等々もこれから出て
くると思いますし、車両更新も進めておりますので、多くの経費がかかってくる時期に差し
かかっているのではないかと考えております。

デマンドタクシーは交通施策として、高齢者の方、特に80歳以上の方を支援する乗り物
としてかなり浸透してきたと思います。

では、この件についてご承認いただけますでしょうか。

(異議なし)

令和2年度の実施事業及び決算については承認されました。ありがとうございました。

[令和2年度の実施事業及び決算については承認された。]

では、次に④令和3年度の事業案及び予算案について事務局より説明をお願いします。

[④令和3年度の事業案及び予算案について説明 資料：別紙21～別紙23]

(会長)

事務局より令和3年度の説明がありました。車両購入にかかる費用は丹波市の予算で計上されているのでここには反映されていませんが、車両購入に伴うマグネット代は当協議会の予算に計上されています。

それから、デマンドタクシーの木曜日運行の社会実験を実施するというので昨年度より予算が増額していますが、木曜日運行に係る予算の補足説明を事務局よりお願いします。

(事務局)

まず、デマンドタクシー車両の運行経費 12 日分として、約 400 万円増額になっています。

併せて予約センターの運営日も 12 日分追加されますので、オペレーターの賃金や社会保険料等で約 50 万円の増額になっています。

また、電子マネー決済に係る予算も増額しています。

(会長)

ありがとうございます。運行日が週 4 回から週 5 回に増えると、予算もそれに応じて増額になるということがわかりました。

それでは、令和3年度の事業案と予算案につきまして何かご意見等ありますか。

(委員)

予算についてですが、運行事業者の経費の負担軽減につながるものが全然計上されておりません。

デマンドタクシー運行費の単価は、運行開始から 12 年間で消費税増税分以外は増額されていない状況ですが、一方で兵庫県の最低賃金は、デマンドタクシー運行開始時の平成 22 年の 734 円から、令和 3 年 10 月にはコロナ禍の中でも 28 円上って 928 円になります。更に今後 2、3 年のうちに 1,000 円を目標にするということらしいです。

議事の⑤番や⑦番に関係することとして、燃料費は浮き沈みがあるものなので仕方ないものとしても、雇用に関しては運行日が増えると賃金体系を変えたり、社会保険や雇用保険の扱いが変わるのに、そのことが何も考慮されずに運行費の単価はずっと据え置きのままです。

デマンドタクシーの運行開始時には 5 年目で見直すという話が出ていましたけど、現在まで見直されることもなく、その間に上がった賃金を考えれば今のままでは乗務員の確保も難しくなるのではないかという懸念もあります。

このコロナ禍でも、運行会社も感染拡大防止に関する努力をして業務を継続していますので、運行費についても予算に増額計上して考えてもらわないと、理想的な運行は難しいと思います。これからは運行事業者のことも考えていただきたいという事をお願いします。

(委員)

私はデマンドタクシーの運行開始当時に役員をしていて市役所の方と話しましたが、5年が過ぎれば車両も替えるし事業の見直しもするという約束でした。

ですから、運行事業者6社にもそのように伝えてきましたが、見直しもなく10年以上経ちました。

車両の修理費は10万円以上掛かることも多く、運行会社に負担が掛かっています。

事業の見直しがされないまま市の担当職員は次々と代わり、書面にしてほしいという要望も対応できないということでした。

引き合いに出して申し訳ないですが、市は路線バスの車両を令和2年度に購入して、また令和3年度も購入するようですが、デマンドタクシーはもう10年も乗っています。

いつ故障しても当たり前の状態なので、走行距離が長いものから早急に替えていくようにしていただきたいです。

10年前に約束したことですし、乗務員の確保も難しい状況なので、本当にこの件は早急に考えていただかないと困ることになると思います。

(会長)

ありがとうございます。今までいろいろと飲み込んでいただいていたようで、本当に大変な部分もあるかと思います。

そのことについてはデマンド会議でしっかりと話し合っ調整する場があると思います。

先ほどの発言からすると、なんとか今回は飲み込むけれども、今後は一つ考えてくださいというご意見ですので、いろいろとモニターしながら決めなければいけない話もあろうかと思います。

これについて事務局から当面の考え等ございますか。

(事務局)

デマンドタクシーの運行会社様にはいろいろとご苦勞をお掛けしていることは承知しております。

5年経過すれば見直すという約束については、不勉強だった訳で申し訳ございませんが、現在、車両更新については順次行っているところです。

先ほどの会長のご発言も踏まえ、市の予算折衝に向けて検討したいと考えています。

(会長)

今日は、検討の一步をまず進めてくださいということです。

本当はかなり頑張っやっていただいている部分がありますので、是非ご検討をよろしくお願ひしたいと思います。

今回のデマンドタクシー運行会社からの提案については、デマンド会などを通じて話し

合って、予算確保については一概にはすぐには出来ないことがあると思うので、市としてもねばり強くやっていただくということでよろしくをお願いします。

その他に何かございますか。よろしいでしょうか。

では、令和3年度の事業案及び予算案についてご承認いただけますでしょうか。

(異議なし)

特にご意見はないので異議なしということによろしいですね。令和3年度の事業案及び予算案については承認されました。

令和3年度は木曜日運行の社会実験を行うことが一つのテーマになると思います。

【 令和3年度の事業案及び予算案については承認された。 】

次に、⑤木曜日運行の社会実験について事務局より説明をお願いします。

[⑤木曜日運行の社会実験について説明 資料：別紙 24-1、24-2]

(会長)

ありがとうございます。木曜日運行の社会実験につきまして何かございますか。

(委員)

木曜日の利用者数の目標数値はありますか。木曜日運行を実施するかしないかの判断基準になる数値は定められていますか。

(事務局)

現時点では明確な目標数値はございません。

運行する曜日が一つ増えても、月曜日から金曜日まで全体の利用者数が一緒であれば、それは利用する曜日が分散したという事になります。

全体の需要が増すのであれば木曜日運行を実施して輸送力を増やすということも考えられますが、全体の需要が同じか、又はこれまでの様に若干でも減っていくようなことがあれば、全体の輸送力としては、需要に対する供給はできているということになります。

その場合は単純に運行曜を増やすという事ではなく、月曜日から金曜日までの全体の運行をどうするかという視点で今後を考えていきたいと思っています。

(会長)

ありがとうございます。別紙 11 の曜日別延べ利用者数に木曜日が増えたとして考えて

みると、例えば木曜日が増えても、月・火・水・金曜日の利用者数が減って総数が増えなければ、ただ利用が分散しているだけということになります。

木曜日運行により新しい利用が増えたらいいのですが、総数が増えなければ、経費のことも考慮して、実施する必要はないだろうという解釈になると考えます。

ですから、目標の数字というよりは、これまでの実績を比較しながら、この丹波市地域公共交通活性化協議会で決めていくということだと思います。

木曜日の運行の受付はいつからされますか。

(事務局)

最初の木曜日運行が9月2日ですので、1週間前の8月27日から受付開始します。

(会長)

神戸運輸監理部にも必要な書類は提出済みですので、実施に向けて調整、利用者への周知等よろしくをお願いします。

次の活性化協議会で利用状況等の報告がされると思いますが、最初は周知の関係で少し利用が低調になることも予想できます。10月から11月の結果がどうだろうかという部分で、利用日が分散するよりは新規利用が増えれば効果ありという判断になってくるのではないかと思います。

今回の木曜日運行の社会実験はトータルで12日間運行します。やってみないと分からない部分もありますし、それに対してこれだけ経費をかけるのかというのも気になります。

この件につきまして何かございますか。よろしいでしょうか。

(異議なし)

デマンドタクシー運行事業者、丹波市商工会には、勤務調整等いろいろとご苦勞をかけますがよろしく願いいたします。

【 木曜日運行の社会実験については承認された。 】

次に⑥地域公共交通活性化再生法の改正について、神戸運輸監理部からご説明をいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

[⑥地域公共交通活性化再生法の改正について(地域公共交通計画について)説明]
別添資料・地域公共交通活性化再生法の計画制度と補助制度(見直しの方向性)他
・地域が自らデザインする地域の交通

(会長)

ありがとうございます。努力義務とありますが、前々からある、まちづくりと地域公共交通を連携させ、新たな地域公共交通計画の策定を目指すということです。

関連するところで、県の「ひょうご公共交通 10 カ年計画」が令和 3 年 3 月に改定されましたので、オブザーバーの兵庫県交通政策課よりご説明をお願いいたします。

[別添資料 ・ ひょうご公共交通 10 カ年計画の改定について説明]

(会長)

ありがとうございます。県の方でも全ての市町が地域公共交通計画を策定することを目標にしているということです。

当協議会でも地域公共交通計画の策定を検討しなければならないと思いますが、市としてはどのようなお考えかお聞かせください。

(委員)

丹波市におきましては、平成 22 年 3 月に地域公共交通の将来ビジョン計画を作成して、それに基づき、小型低床バスの導入やデマンドタクシーの導入等の施策を進めて参りました。

しかし、計画策定から 10 年以上経過して時代も変化してきておりますので、何らかの見直しが必要になるだろうと考えていたところです。

今後も引き続き丹波市としての公共交通の施策を推進していくにあたり、国や県の支援を受けながら進めていくためにも、また時代の変化に対応した公共交通施策を進めていくためにも、地域公共交通計画の策定は必要であろうと考えています。

(会長)

ありがとうございます。地域公共交通計画の策定に取り組むというお考えということですね。

丹波市ではデマンドタクシーやおでかけサポート事業、路線バスや鉄道等、地域の中での理想的な支援を改めて見極めた上で、計画を策定する必要があると考えます。

この件につきまして何かご意見等ございますか。

(異議なし)

ありがとうございます。地域公共交通計画の策定に取り組むことについてご承認をいただきました。

【 ⑥地域公共交通活性化再生法の改正について（地域公共交通計画について）は地域公共交通計画の策定について取り組むことについて承認を得た。 】

デマンドタクシーの運行開始から10年以上経って、公共交通におけるまちの姿が出てきたということもございますし、また、これから人口が減少する中で、今年度からは定住促進の部局が公共交通を考えていくという所で、丹波市を盛り上げていくにはどうすれば良いのかを交通の面からまちづくりも含めて考えていける良い機会だと思いますので、今年度のテーマの一つとして掲げさせていただきたいと思います。

国や県で地域公共交通計画の策定にあたって何か勉強会や説明会の予定はありますか。

（委員）

勉強会や説明会の予定はありませんが、もし分からなければ個別に対応いたします。

（会長）

個別に対応していただけるということですね。県の方も是非そういう方針でよろしくお願いして、地域公共交通計画の策定に取り組んでいきたいと思います。

事務局としてはいかがですか。

（事務局）

今お示しいたきましたように、市の立場として、また丹波市地域公共交通活性化協議会の事務局としても取り組んで参りたいと思います。

ただ、予算執行に係る部分については令和4年度からの取り組みになると思いますが、協議そのものはできるだけ早い段階から始めさせていただきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

（会長）

それでは、次に⑦周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究について事務局より説明をお願いします。

**[⑦周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究について説明
別添資料：協議項目]**

（事務局）

お手元に周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究についての協議項目を記した資料をお配りしておりますので、実際にどのような方法で社会実験に取り組んでいくのかにつきまして、本日は忌憚のないご意見をいただきたいと思います。お待ちしております。

そして、令和4年度の予算を確保して、同年度中の一定期間に社会実験を実施するには、今回の活性化協議会では具体的な実施方法を決めていただきたいと考えております。

(会長)

ありがとうございます。社会実験を行うのは、丹波医療センターへの直行便に関するアンケートを実施しても、実際は乗らない方が「より便利になったらいい」との思いから、直行便の運行を希望する回答が多くなる可能性があるのですが、経費はかかっても実際にサービスを提供して社会実験を行い、利用実績を見るべきではないかということでした。

丹波医療センターの開設にあわせて路線バスを再編しておりますので、アクセスは良くなっていますが、市島地域など一部地域では乗り継ぎが不便なために直行便の運行を望む意見があるということです。

一方で、電車を利用すれば少しの乗り継ぎで丹波医療センターに行けるという考え方もあります。今回は、どんなことでもいいので、この件についてのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

(委員)

この社会実験を行う目的は需要の把握ということですが、その前に、丹波医療センターにどれだけの住民の方々を取り込むかというような意図はないのですか。

一つの交通手段で丹波医療センターに行くことが困難な地域として、市島地域があげられていますが、この地域は京都府に近いので京都府の病院に行かれる方もあるでしょう。直行便ができれば丹波医療センターを利用するようになるのでしょうか。

(会長)

必要な議論だと思います。事務局からこの件についての考えをお願いします。

(事務局)

まず、市島地域は丹波医療センターへ行くのに一番多く乗り継ぎ回数を要する、困難な地域ということです。

市島地域では、丹波医療センターを利用される方も、近隣の京都府福知山市の病院を利用される方もあります。今回の社会実験は、単なる丹波医療センターの利用者を増加させるという目的では考えておりません。

丹波医療センターの利用者を増やすという目的であれば目標数値を持つことも分かりませんが、それよりも、直行便を求める声がたくさんあるけれども、声だけでは本当の需要が分からないので、実際に車両を運行して需要把握することが必要だと考えます。

まず一定期間ではありますが、直行便を準備した場合に実際に利用があるかどうかという観点で社会実験をさせていただきたいと思っています。

(委員)

閉院した県立柏原病院への路線バスは便数が少なかったですが、石生駅で路線バスの現状を見てみると、丹波医療センターへ乗り入れる便数は増えています。

市長が、デマンドタクシー車両を活用して直行便の運行をお考えのようですが、実際にデマンドタクシーによる直行便を運行したとしても輸送力に限りがあると思いますし、今は路線バスで十分賄えているのではないかと思います。

(会長)

移動の要となる石生駅と丹波医療センター間のアクセスの問題を事務局はどうお考えですか。

(事務局)

これは事務局の立場と市の立場の両方があります。

丹波医療センターの開設に合わせてバス路線の再編をしていただきましたので、確かに各交通機関を乗り継げば丹波医療センターに行く方法は以前に比べて非常に増えています。

それをうまく利用して丹波医療センターに行かれる方がたくさん増えている一方で、乗り継ぎが不便という事で直行便を希望する声もたくさんあります。

しかし、声はあっても実際の利用はどうか実情が把握できないということから、まず一定期間の社会実験をさせていただきたいと考えるものです。

(会長)

市民の声は無視できない市の立場もありますので、社会実験をして、公共交通全般、デマンドタクシー、路線バス、鉄道、普通タクシー、場合によってはおでかけサポート事業も絡めて考えていこうということだと思います。

公共交通空白地有償運送を実施されている NPO 鴨庄さんは地元の声把握されていると思いますがいかがですか。

(委員)

鴨庄からの直行便が欲しいという声があることはあります。

鴨庄はふれあいバスを運行しておりますが、鴨庄ふれあいバスは買い物や日常生活の移動手段ですから、鴨庄ふれあいバスに乗って駅へ行き、電車を利用して丹波医療センターに行かれる方というのは、実際にはあまり多くないと思います。

ただ、希望する声はありますので、検討する余地はあると思います。

現状は地域差がありますので、地域の公平性を考えれば、何回かに1回くらいは直行便があってもいいかなという気はしますが、先ほどもお話しがあったように、昔からの習慣で京

都府福知山市の病院を利用する方がありますし、最近では、薬をもらうだけなら地域のかかりつけ医を受診するという方もあります。

ですから、今回はたまたま新型コロナウイルスのワクチン接種の関係で、丹波医療センターへの臨時バスに乗った方々があり、直行便を希望する声もありますが、実際にどれくらいの利用状況になるかは分かりません。

(会長)

路線バスの再編で医療センターへ行くバスの便数は増えましたが、やはり実際の需要がどうなのかというところがネックですね。

(委員)

駅へ行くバスの定期便がないというのがネックになっていると思いますが、それを鴨庄ふれあいバスで賄えるかというところ、それもなかなか難しいです。

(会長)

ありがとうございます。鴨庄の地元ではそのような意見があるだろうということですね。

いろいろな地域があつてなるべく格差を是正したいというところですが、公共交通には居住地から目的地までの移動に関し、料金的な格差、アクセスの格差があります。

その点を是正するような話になれば一定の価値はあると思いますので、どのような方向に落とし込んでいくかというところは、直行便の実験をした上で議論をして決めていければと思います。

その他に何かございますか。

(委員)

現在、市はコロナワクチンの集団接種に臨時送迎バスを運行しておられますが、利用人数は把握されていますか。

私が丹波医療センターや石生駅で見ている限りでは、市島地域や青垣地域等の交通手段の不便な地域からの便でも、ほとんど利用者の乗っていない臨時バスが多いです。

石生駅でも、市島方面から電車で来て、普通タクシーに乗り継ぐ方もおられません。

それから、春日地域から丹波医療センターへの移動で、氷上地域との境まではデマンドタクシーを利用し、そこから普通タクシーに乗り継ぐ方も週に1便もないくらいです。

全体的に見ると、交通手段の不便な地域の方ほど、家族の通勤時に丹波医療センターまで乗せてもらう等、家族の送迎が多いのではないかと思います。

バス会社の意見も聞いて、どれくらいの利用があるのか現状を調べた方が良いと思います。

そして、先ほど事業案のところでも発言しましたが、この先、このような事業をするにも、

ある程度何かの利点がないと誰も動かなくなると思います。

運行時間、休憩時間、人員確保の問題が発生するので、やはり何か対策が要ることだけは覚えておいてください。

(会長)

ありがとうございます。公共交通全体の最適化も含めて研究しないといけないというご意見だと思います。

自治会長さんは何かご意見等ありますか。

(委員)

実証実験によって需要を把握するという方法もわかりますが、やはり地域の実情を見て、直行便を望むたくさんの声の「たくさん」はどのくらいのものなのか、実際に需要があるかどうかをある程度調査したうえで次の段階に入っていくことも大事ではないかと思います。

ここで意見を聞いて令和4年3月にある程度まとめた素案を出すというのはなかなか難しいと思います。それまでに作業チームみたいなものを作って検討したうえで、この会議で議論をすることも必要ではないかと思います。

(会長)

ありがとうございます。地域の中での会合でいろいろ聞き出すのも大変だと思います。

その他に何かありますか。よろしいですか。

それでは、たくさんのご意見をいただきましたので、今日はここまでにしたいと思います。

具体的な事は次回の会議で協議していただきたいと思いますが、私と事務局で本日のご意見を整理、相談をして、実現可能な案を次の会議で提案できればと思います。

場合によっては、部会を設けることも一つの方法ですが、そういうところも含めて考えさせていただければと思いますのでよろしくお願いします。

【 ⑦周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究については、会長と事務局で相談をして丹波医療センターへの直行便運行の社会実験の実施案を次回の会議に提案することとした。 】

それでは、次に⑧福祉による移動施策について健康福祉部より説明、報告をお願いします。

[⑧福祉による移動施策について説明]

別添資料：1.丹波市福祉送迎サービス（おでかけサポート）事業について

【障がい福祉課】

2.高齢者外出支援事業について

【介護保険課】

(会長)

ありがとうございます。令和3年度からのおでかけサポート事業は、きちんとスタートが切れて本当に良かったと思います。

この件につきまして何かご意見等ありますか。

(委員)

まず1点目は、おでかけサポート事業を行ってきた中で、今まで無料だった利用料の自己負担に対して、利用者からの意見はありませんか。

2点目は、おでかけサポート事業の目的が明文化されたものがあると思いますが、その中に、利用者の自立の促進や利用者の費用負担の目的や理由が分かりやすい文言が入っているのかということ。

3点目は、対象者の枠組みの中に身体障害者手帳、要介護者等の要件がありますが、利用者の能力的な面で、要件の範囲には入っていないけれども、実際にはおでかけサポート事業の必要性が出てくる方等に関しての、個別の必要性を判断する評価の在り方を検討されているのかということ。以上3点についてお聞きします。

(事務局)

まず1点目についてですが、この事業を始める事前の段階では、有料化に関することを含めいろいろとご意見をいただきました。

ただ、事業が始まってからは、連絡先が以前の社会福祉協議会から丹波市に変更になったことや、予約確認の連絡があるのかないのかといったご意見はありますが、利用料金について、300円が高いとか、高いから使いにくいとか、なぜ料金を取るのかという様なご意見は、直接的には伺っておりません。

ですので、事前の周知を含めて丁寧に進めてきたというところで、制度としては皆様のご理解をいただいているのではないかと考えています。

次に、2点目の事業の目的についてですが、介助や支援を必要とする方の外出を支援する送迎サービスの説明をさせていただいております。

移動に支援が必要な方が利用できる便利なものとして、おでかけサービスを利用させていただいております。

また、タクシー等を利用できる方については、高齢者外出支援事業で、デマンドお試し券、タクシー券等を交付して利用していただくということで、一定のご理解をいただいていると思っております。

(委員)

おでかけサポート事業は、社会福祉協議会から市の障がい福祉課に引き継がれましたが、

今後もどうなるかは分からない訳です。

ですので、引き継いでいく段階で、事業目的の中に利用者の自立促進や社会参加の考え方を明文化しておく必要が今まで以上にあるのではないかと思います。

そのような文言が入ることで、例えば自己負担の 300 円は社会の一員としての義務や役割を認識できるものとなります。

この事業が後々に続いていく前提で考えた時に、ただ単に外出のサポートというだけではなく、その前段のしっかりとした目的を分かりやすく明文化する必要があるのではないかとということです。

(委員)

おでかけサポート事業開始時の手引きと保存版には、外出時に介助や支援を必要とする要介護者や障がい者に対して、車両による特定目的地への送迎サービスを行い、日常生活及び社会生活を支援し、自立支援、健康保持等在宅福祉の向上を踏むために、おでかけサポート事業を令和 3 年 4 月 1 日よりスタートするとあります。

(委員)

それで間違っていないですが、もっと発展的にできないかということです。

(会長)

理念や志は大事なので、その部分をもっと分かりやすく明文化できないかということだと思います。

(事務局)

事業開始当初に、おでかけサポートの利用登録の申請をしていただく際に、利用の手引きと保存版をお配りし、周知させていただいています。

また、各団体への説明会につきましても 20 回程実施させていただいており、全ての方が熟知をされているということではないと思いますが、概ねご理解をいただいた上で、事業を進めさせていただいていると考えております。

(会長)

丹波市さんが頑張っていたので伝わったのだと思います。

(事務局)

3 点目の個別の評価については、現在までの 3 ヶ月の実績等を精査しながら、先ほど指摘していただいた点も含めて確認をしていきたいと思っています。

(委員)

これまでに個別の評価が必要な状況はありましたか。

(事務局)

そのような相談は現時点ではございません。

(委員)

以前から申し上げていますが、基本的な判断だけでなく、能力的に評価をして個別に判断するようなケースも新たに出てくるのではないかと推察されます。

ですから、どのような個別の能力的評価ができるのかという議論が今までの会議でもありました。

その議論が消えないようにしないといけないと考えますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(会長)

デマンドタクシーを利用するのが難しい方がおでかけサポートを利用されるということもあります。デマンドタクシーとの連携をとりながら、個別の評価のシステムについて考えていただきたいと思います。

それでは、次に⑨その他ということで、兵庫県バス協会さんから資料をいただいておりますので説明をお願いします。

[兵庫県バス協会より当日配布資料について説明]

- ①高齢者運転免許自主返納サポート制度について
- ②県民交流バス事業について
- ③都市農村交流バス助成制度について

(会長)

ありがとうございます。自治会、老人会、子ども会等の地域団体で、県民交流バスを利用される機会があればよろしくお願いします。

次に、免許返納の話がありましたので、丹波警察署から現況等お話しがあればお願いします。

(委員)

運転免許の自主返納については、毎年一定数の返納があります。

公共交通機関が発展して使いやすくなれば、皆さんが免許を返納しやすくなると思います。

(会長)

ありがとうございます。

それでは最後に、次回の開催について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

次回は、令和3年10月又は11月頃に開催ができればと考えています。詳細日程等につきましては、会長とご相談の上、皆様にご案内を差し上げたいと考えています。

(会長)

次回は、木曜日運行の実験の包括的な研究をはじめ、周辺地域から丹波医療センターへの直行便、地域公共交通計画の策定について、具体的な案をご提案できればと考えています。

それでは、副会長より閉会のごあいさつをお願いします。

(副会長)

本日は長時間、慎重に議論いただきありがとうございました。

新聞を見ていると、丹波市でも少しずつ新型コロナウイルスの感染者が増えてきた様な状況ですので、皆様には普段の生活におかれましても、十分に気をつけていただきたいと思えます。

本日は大変お世話になりありがとうございました。